



オリーブ便り Olive News

2021.10.01

No.448



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 門脇 則光

基本
理念

患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

新病院長 就任挨拶

香川大学医学部附属病院 病院長 門脇 則光



2021年（令和3年）10月1日付けでの病院長就任に伴い、ご挨拶申し上げます。

当院は1983年（昭和58年）に香川医科大学医学部附属病院として開院してから約40年間にわたり、県内で唯一の大学病院として地域の高度医療を担い、多くの人材を輩出し、明日の医療につながる研究を続けてきました。このように、高度医療、教育、研究という3つの使命をもつ病院は、国から特定機能病院として承認され、特段の役割が期待されています。

当院はこれらの役割を果たすべく、さまざまな先進的取り組みを行っています。2016年から稼働している新手術棟では、最先端のロボット手術、術中MRI撮影で精密な手術を可能にするナビゲーション手術、心・血管X線撮影装置を組み合わせたハイブリッド手術を行い、最新の手術を提供しています。病棟・外来でも、高度ながん治療、周産期医療、救命救急医療などを積極的に展開し、地域医療を幅広く支えています。さらに、昨年来猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症に対しても、香川県や県内医療機関と連携して取り組み、重症患者さんや妊娠中の患者さんを受け入れて、「最後の砦」としての役割を果たしています。

こうしたさまざまな取り組みを、医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士・理学療法士・作業療法士・臨床心理士などの多様なメディカルスタッフや事務部門の職員がやりがいをもって協力し合い、それぞれの職責を全うしながら進めています。また、こうした高度医療を影で支える重要な部門として、医療安全管理部があります。複雑かつ患者さんの命に関わる無数の医療行為を安全に行うには、人間が正しい手順で仕事を進めるためのシステム作りが重要で、私たちも不断の努力でそのシステムを維持し進化させています。

今後当院が地域医療に一層貢献するために、こうした従来からの医療を継続するだけでなく、臨床研究支援センターのサポートのもと、次世代医療の候補である新規治療の臨床試験や、さらにその先に行く先進的な研究を行っていきます。また、明日の医療を担う優秀な人材を多数育成・輩出し、香川県全体の医療を支えていきます。こうした大学病院・特定機能病院が担う役割を果たすべく、職員一丸となって職務を全うしてまいります。

当院には、「ささえる、つながる、リードする」というすばらしいキャッチフレーズがあります。まさしく、地域の皆さんをささえ、皆さんとつながり、皆さんをリードして、香川県の医療をさらに充実させるとともに、明日の医療を切り開いていきたいと思っております。今後とも皆様のご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

診療科長の横顔

座右の銘

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」。私の好きな言葉です。江戸時代米沢藩主の上杉鷹山(ようざん)の詞のようです。できそうもないことでも強い意志を持って諦めずに頑張ることが大切であることを強く諭しています。現実には難しいことがあるかもしれませんが、最初から投げ出してはなにもできません。

診療科紹介

診療科名は、「歯・顎・口腔外科」です。歯や顎の疾患を広く扱っています。最近では、予防的医学の観点から、手術前や化学療法時の口腔の衛生管理の重要性が注目されるようになってきました。「周術期口腔機能管理」との名称で、“口腔ケア”に関する診療が多くなってきています。当科で治療を受ける方だけでなく本学医学部附属病院で治療を受けられる全ての患者さんのためになるような診療を目指しています。



香川大学医学部附属病院
歯・顎・口腔外科
診療科長 三宅 実



患者さんへのご案内

香川大学医学部附属病院 特定行為研修センター

当院では、厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」の研修を修了した看護師が、医師とともに予め作成した手順書(指示)により**一定の診療の補助(特定行為)**を実施しています。

当院で実施している特定行為

- ◎気道の確保に関連する 特定行為
- ◎人工呼吸療法に関連する 特定行為
- ◎長期呼吸療法に関連する 特定行為
- ◎ドレーンの管理に関連する 特定行為
- ◎創傷・ろう孔の管理に関連する特定行為
- ◎栄養及び水分の管理に関連する特定行為
- ◎呼吸や循環の維持・調整に関連する 特定行為
- ◎循環動態に係る薬剤投与に関連する 特定行為
- ◎痛みの管理に関連する 特定行為

令和3年9月、香川大学特定看護師が誕生しました



グレーのユニフォームが目印です

研修を修了し、さらに院内規定の水準に到達した看護師を当院では**特定看護師**と呼んでいます。特定看護師は、高い判断力と技能を兼ね備え、より高度な診療の補助を行える看護師です。

皆さまのご理解・ご協力をお願いします。

【特定行為に関するご相談、お問い合わせ先】 外来診療棟1階 総合地域医療連携センター
患者相談窓口(担当:特定行為研修センター) 月~金曜日 9:00-17:00

令和3年度 香川大学医学部附属病院関係医療機関及び同窓会讃樹會合同懇談会を開催 (WEB配信)

香川大学医学部附属病院 副病院長(教育・研究担当) 横井 英人

8月26日(木)香川大学医学部において、令和3年度関係医療機関及び同窓会讃樹會合同懇談会を開催しました。この懇談会は地域の関係医療機関との診療連携や協力体制をより強化すること及び大学病院の現状等を報告することを目的としています。昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEB配信にて、約1時間の本院の近況報告とさせていただきます。関係医療機関、同窓会及び本院から総数70名のWEB参加がありました。

本会は、横井の司会のもと、田宮病院長の挨拶および大学病院の現状と将来構想等について説明があり、次に新任の医学教育学・医学部教育センターの横平教授、脳神経外科の三宅教授および消化器外科の岡野教授(9月1日昇任)より診療科等の教育・研究・診療の概要及び展望について紹介があり、更に卒後臨床研修センターの新センター長の安田センター長より、臨床研修制度および本院の臨床研修プログラムの説明がありました。

続いて、今年度はWEB参加者の中から、代表して横田一郎院長(四国こどもとおとなの医療センター)、井上秀幸院長(滝宮総合病院)、西村和修院長(高松赤十字病院)、森由弘院長(KKR高松病院)、西角彰良院長(香川県立白鳥病院)の5名からご挨拶をいただきました。

昨年に増して、多くの施設にご参加頂き有意義な懇談会となりました。



親子の協力で心筋梗塞を防ぐ

香川大学医学部附属病院 抗加齢血管内科 助教 松永 圭司

30歳から50歳の働き盛りの方が、小さなお子さんを残して突然心筋梗塞で亡くなってしまったら…。考えるだけでもつらいことですが、われわれ循環器内科医は、しばしばそのようなつらい場面に遭遇します。しかし、なぜ働き盛りの若い方が、突然心筋梗塞になってしまうのでしょうか？

若い方が心筋梗塞になってしまうことを“早発性冠動脈疾患”と言いますが、その主な原因の一つとして“家族性高コレステロール血症”という遺伝性の病気が最近注目されています。“遺伝性”というと極めて稀な病気のように思われるかもしれませんが、実はおおよそ250人に1人程度の高い頻度でこの病気の方がいることがわかっており、病気というより、“家系的に生まれつき悪玉コレステロールが高くなりやすい体質”、と考えるとよいかもかもしれません。そして、重要な点として、この病気は悪玉コレステロールの影響で動脈硬化がひどくなってしまいう前に治療を開始すれば“早発性冠動脈疾患”を予防できる可能性がある、つまり治療法がある病気であるということです。

“動脈硬化がひどくなる前に家族性高コレステロール血症を早期診断し、若い方が心筋梗塞になるのを防ぎたい”。このような願いから、私たちの教室では香川県や医師会、そして大学病院を含む県内の小児科の先生など多くの方々と協力しながら、小児生活習慣病予防健診などでLDLコレステロール(≒悪玉コレステロール)が高いと分かったお子さんの中から、家族性高コレステロール血症が疑われる方に検査を行い、早期診断する取り組みを行っています。

また、この病気は“体質”ですので、お子さんに病気が見つかると同時に両親のいずれかの病気が早期診断される事もあります。このような場合には、例えば、お子さんに効果があった治療薬は親御さんにも効果がある可能性があり、つまり、適切に診断されれば、親子で協力しながら治療を行うことができます。

お子さんのうちに病気を診断できれば動脈硬化が進む前に治療ができますし、親御さんも早期診断できれば“早発性冠動脈疾患”を予防できる可能性があります。親子で協力しながら家族を心筋梗塞から守るために、家族の中で悪玉コレステロールが高い方がいる場合には放置せず、かかりつけ医の先生を受診して相談するようにして下さい。

毎日新聞「四国健康ナビ」2020年11月3日掲載分

ケーブルTVで放送中

イキイキさめき健康塾
香川大学医学部附属病院 医療セミナー

10月のテーマ 「腸から元気に!ー腸内細菌叢とこどもの健康ー」

11月のテーマ 「高齢者の婦人科がん治療はどのようにするのでしょうか?」

詳しくはこちら



第20回卒後臨床研修指導医養成講習会の開催報告

香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター センター長 安田 真之

去る8月20日(金)・21日(土)の2日間、スキルスラボ3階にて第20回香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修指導医養成講習会を新型コロナウイルス感染症対策を行いながら開催しました。

指導医養成講習会とは、研修医を受け入れ指導する病院側の指導者養成を目的とした講習会です。開催については、厚生労働省の指針にのっとり開催することが規定されており、報告書の提出も求められています。

今年度は、世話人の先生方(8名)の指導のもと、本院16名および県内の協力型臨床研修病院8施設より8名の計24名の先生方が受講され、厚生労働省医政局長認定の修了証書を授与いたしました。また、2020年度からの卒後臨床研修制度見直しにおける多職種による研修医評価の実施を踏まえ、本院看護師にも参加をお願いしています。

本年より感染対策の一つとして、すべてペーパーレスとしWebでのワークショップを行いました。大きなトラブルもなくスムーズに進行いたしました。

特別講演では、田中信一郎先生(中国四国厚生局健康福祉部医事課臨床研修審査専門官)、近藤高弘課長(香川県健康福祉部医務国保課)よりご講演いただきました。卒後臨床研修制度ならびに県行政における医師育成・確保策の現状と今後の取り組みに関して、理解を深める貴重な機会となりました。

今後も、指導医育成を通じて、香川県の地域医療の充実に貢献できる医師育成に努めてまいります。ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



臨床研究に関するご案内

香川大学医学部 倫理委員会委員長
治験審査委員会委員長
香川大学医学部附属病院 臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー 2021.10月 予定表

| 月日 | 時間 | 場所 | 名称及び内容 | 担当 | 連絡先 |
|----|----|----|--------|----|-----|
| | | | | | |

編集委員会 (50音順)

(2021年9月現在)

阿部(看護)、井町(外来)、木内(検査)、小坂(薬剤)、圖子(管理)、筒井(経営企画)、常森(病棟)、仁尾(医療支援)、南野(副病院長)、門田(放射線)、横井(医療情報)、横川(総務)、和氣(医事) [委員長 田宮病院長]